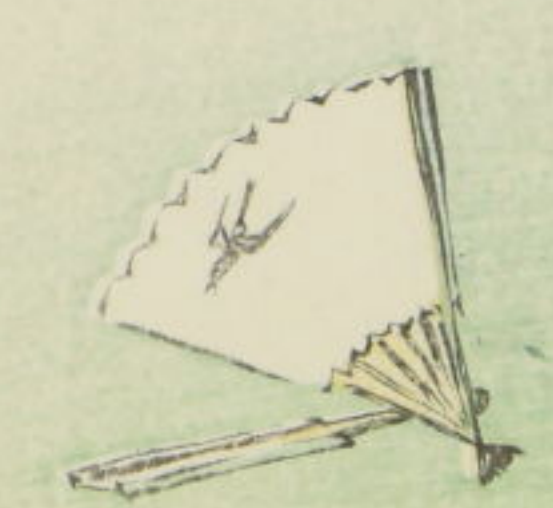




鹿島
 五月廿二日
 鹿島



新石自説

何を以て新石と云ふや
 蓋の石の如く
 山中の石は
 雨に洗はれ
 風が吹けば
 千変万化
 人の心も
 世の事も
 時勢も
 移り変わる
 もの
 ありと
 思ふが
 如く

執る理一白梅後極き
 峯山井院破地石階市海界羽有仙休管外

茶形

茶の形は
 人の心と
 通ずる
 もの
 あり
 といふ
 人も
 あり
 といふ
 人も
 あり
 といふ
 人も
 あり

之を物言
 雄規石帯女休儀盡折羽并茶从海仙说有子ら

石河の
 八景
 石河の
 八景
 石河の
 八景
 石河の
 八景
 石河の
 八景
 石河の
 八景

為完華柱暗月
 山臨水雁松露夕煙帆風未寄年笠平山瑠尔保年音青外華市人叔印

大正十一年

鹿島

